

## Ⅲ 実践事例

### 小学部の実践

#### 意欲をもって生活できる子どもに育てるために

小学部 低学年

#### 1 はじめに

4月当初、本学級は、2年生の男子1名と1年生の女子3名の計4名でスタートした。そして新入学児童3名を中心にして約1か月間、子どもたちの様子を観察していった。この観察の結果〈自立化〉—特に基本的な生活習慣を確立することを第一の指導の目標とした。衣服の着脱や食事、排泄等の生活習慣がきちんと身につけていない、ということが新入学児童に共通して見られたからである。このことが子どもたちの持っている障害によるものであるのはもちろんのことであるが、生育歴を調べたり保護者との話し合いや観察を続けていく中で、次のようなことがわかってきた。親の養育態度に放任したり過保護であったりする所が見られ、毎日のしつけがくり返し連続してされていない。子どもたちにも「誰かがしてくれる、とまわりの人に頼るところがよく見受けられたからである。そこで、①毎日の生活の中で訓練することによって習慣化し意識化させること、②ひとに頼らず自分でやろうとする態度を少しずつ育てていくこと、の必要性を感じた。

以上のことから、主として次のような指導法で目標に向かっていこうとした。

- (1) 学校生活の中の基本的な生活習慣に関わる場面で繰り返し指導することによって習慣化・意識化を図る。尚、日常生活動作の技能を身につけるために運動感覚機能訓練を取り入れていく。
- (2) 音楽リズム的表現等、子どもの興味・関心の高い活動を取り入れた指導を通して、自発性を高め表現活動の芽を育てる。

以下に、(1)についてはA子、(2)についてはB子の指導事例を追って述べていく。

#### 2 児童の実態

		入 学 時	7 月	1 2 月
食 事	A 子	・はしやさじは使うが手づかみが多い。	・指示されるとはしを使おうとする。	・自分ではしやさじを使おうとする。
	B 子	・自分では何もせず食べさせてもらうのを待つ。	・自分ではしや手を使って食べようとする。	・はしでつまもうとする。

		入 学 時	7 月	1 2 月
排 泄	A	・便意は知らせるが紙が使えず失敗も多い。	・紙は使えないが、排泄後水を流す習慣ができた。	・紙の使用ができるようになった。
	B	・便意を知らせるがあとは何もしない。	・指示されてパンツをおろそうとし始めた。	・パンツの上げ下げができ始めた、紙を使おうとする。
衣 服 の 着 脱	A	・上着をうまく着ることができない。くつ、ズボンははける。	・上着を着ることはできるが前後裏表をまちがえる。	・ボタン・スナップ以外はほとんど一人で着れる。
	B	・全面介助を必要とする。意欲もない。	・手つだってもらいながら衣服を脱ごうとする。 ・ズボンがはけ始めた。	・上着やスモックにそでを通すことができ始める。

### 3 指導の実際

#### (1) 衣服の着脱 — A子の場合 —

低学年では一日の生活の流れを設定しその過程で、子どもたちは日常生活に必要な事柄を行動を通して身につけていき、繰り返すことによって習慣化していく。さらに生活に対する意識化を高めていく。このような生活を通じて自分の身のまわりのことをひとりですようと子どもを育てていこうとした。教師は子どもたちと生活をするなかで、子どもたちの実態をとらえながら介助したり指導の手を加えたりして、子どもたちが自分ですようとするように手だてを加えていった。4月以来指導してきたA子の衣服の着脱について例をあげてみる。

指導の方針としてつぎのことを考えた。

- 時間がかかってもかまわないからできるだけひとりでさせる。
- つまづきの実態をとらえながら介助し、介助をするなかで方法を体得させる。
- 家庭と連絡をとりながら進めていく。
- 友だちといっしょに着替えさせる。
- 生活の流れのなかの1つの活動として意識させる。

子どもにとって衣服の着脱はほとんど興味や関心がない為、登校してきても着替えをしないのは当然であるので、登校して持ちものを置いたらすぐに教師が「着替えをしましょう」と声をかけてやることにより着替えすることを意識させていった。A子についても教師が「着替えましょう」と

声をかけてから介助をはじめていった。

指 導 内 容	主 な 介 助 お よ び 手 だ て
(脱衣) ・脱衣の意識をつける。 ・上着、ブラウスを脱ぐ。	・「着替えましょう」と声をかけてやる。 ・前のスナップをはずしてやる。 ・一番下の見やすいボタンをはずすことからさせる。 ・ほめたり頭をなぜたりして自信をもたせる。
(着衣) ・上着、ブラウスを着る。 袖を通す。 スナップ ボタン	・襟元を両手でにぎったまま頭上を通りこさせたところで手を通させる。(示範) ・片袖だけひっぱって手を通させる。(示範) ・スナップとスナップを手をそえて合わせてやる。 ・全面介助

このような手だて・介助をしながら指導してきたがA子は自分にできるところまでは自分でやって、自分にできないところになると「ハイ」と言ってやってくれるよう要求してくるようになった。この学級にはA子と同じダウン症であるが、言葉も比較的はっきりしており、身辺処理もわりとよく出来るC子がおりふたりならんで着替えたり、ままごとをしたり、本を開いたりしている。このC子の影響力が大きく、模倣の得意なダウン症でもあり脱いだ衣服のしまつもC子の影響からか、少しずつしようとするようになってきている。一日の生活の流れも少しは理解できた12月のある日のA子の着替えのようすはつぎのようであった。



- 
- |  |   |
|--|---|
| 8:50 T 「着替えましょう。」                                      | 9:08 A ズボンを脱ぐ。  |
| T コートのボタンをはずす。   | 9:09 A 着替えのはいつている箱をとり出す。  |
| 8:52 A コートを脱ごうとする。                                     | A 着替えをみんな外に出す。  |
| 8:54 A コートが脱げる。脱いだあとコートのボタンをつついてる。                     | 9:10 A セーター、ズボンをたたんで入れる。(C子のするのを見て)                             |
| 8:55 A C子とふざけたりあそんだりする。                                | 9:14 A トレーパンをはく。  |
| 9:00 T A子のそばに行きじっと見てやる。(着替えの時間だという意識があったようで、また脱ぎにかかる。) | 9:15 A シャツを着る。<br>A 手がうまく出ないのでTのそばにくる。(言葉が出ないので、Tの顔を見て「ハイ」という。) |
| 9:02 A 自分でスナップをはずしセーラ服を脱ぐ。                             | 9:18 T シャツのそでをあげてやり、ファスナーをしてやる。                                 |
| 9:05 T 「セーターも脱ごう。」                                     |   |
| A セーターを脱ぐ。   |   |
-

A子の衣服の着脱について説明してきたが、A子の場合には着脱に必要な、かぶる、手を通す、はく、あげる、おろすなど大きな動作はわりとうまくこなしているが、ボタン、ファスナー、スナップなど細かい動作になるとまだ抵抗があり着脱のつまづきになっている。また、ズボンの前後、スモックの表裏など区別しにくいこともあって違っている場合もあるが、着脱の際に必ず意識させるような手立てを考えてやらなければならない。友だちを意識したり、教師の指示を聞いたり、教師に進んで援助を求めたりするなど社会的行動も見られるので、今後、さらに技能的にも態度的にも高まっていくと思われる。

(2) 運動感覚訓練をとおして

衣服の着脱について事例をあげ説明してきたが、身辺自立を進めるために表現の基礎としての運動感覚訓練も重要なものである。指導にあたっては、まず子どもたちが興味をもって取り組めるもの、身辺処理の動作につながり易いものを考えスナップあそび、玉とおしをとりあげてみた。

(ア) スナップあそび

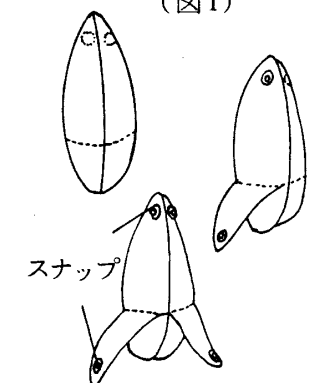
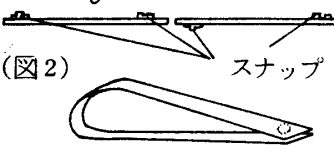
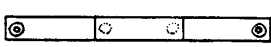
① ねらい

- ・スナップのはずし方を体得する。
- ・スナップのはめ方を体得する。

② 準備

- ・布で作ったバナナ(図1)
- ・両端にスナップのついた布テープ(図2)



児童の活動	指導の意図	児童の反応および手立て
<p>(図1)</p>  <p>スナップ</p> <p>(図2)</p>  <p>スナップ</p> 	<p>○スナップのはずし方を行動を通して体得する。</p> <p>○スナップのはめ方を行動を通して体得する。</p>	<p>○「食べたいなあ」「おいしそうだなあ」とおもしろそうに示範して見せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A子 — 数少ない言葉で「うまい」と言いながら皮をひっぱってむくことができた。C子と交代で遊ぶ。</li> <li>・B子 — 関心を示さない。手をそえてはずす動作を繰り返させている。</li> </ul> <p>○長くつないで輪をつくり子どもの首にかけてやったり、手首に通してやったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A子 — 自分でとめようとするがうまく穴があわない。手をそえて穴のよく見えるようにしながら訓練している。</li> <li>・B子 — 片手しか使おうとしないので手をそえてはずし方を訓練する。</li> </ul>

(1) 玉とおし

① ねらい

- 小さな穴にもものを通すことを体得する。
- 注意力、集中力を持続させる。

② 準備

- ビーズ(ボタン型、球型)
- 竹ひご、ひも
- 発泡スチロール板



指導の順序	指導の意図	児童の反応および手立て
	<p>○通し方を行動を通して理解させる。</p>	<p>○穴の位置のわかり易いボタン型からはじめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A子 — 教師の示範を模倣することによってすぐに理解できた。</li> <li>・B子 — 教師が手をもって通してやったが関心が薄く、通すよう声をかけ意識づけているが1:2こぐらいしか集中できない。</li> </ul>
	<p>○両手を動かして通す動作を体得させる。</p>	<p>○球型のビーズの場合には、ビーズを持つときに穴の位置を見るように指示したり示範して見せたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A子 — 通す直前になってよくビーズを落していたが、訓練を重ねているうちに落さなくなった。穴の位置をよく見て通している。</li> <li>・B子 — 片手しか動かそうとしないので前の段階での訓練をさせている。</li> </ul>
	<p>○ひもにビーズを通すことに慣れる。</p>	<p>○ひもが太く滑りが悪いため、手でビーズをずらせる方法を示範し模倣させていった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A子 — 2.5cmぐらいのとじひも1本は通す。通したものを首にあてて楽しんでいる。</li> </ul>

このような運動感覚訓練は、すぐに効果が現われることは少ないが訓練をつづけていくことにより運動と知覚の統合なども強化されて身辺自立にも効果があると確信し訓練を続けている。

### (3) 音楽を通しての指導

子どもたちは音楽に対してとてもよく反応する。幼児向けテレビ番組の主題歌やバックミュージック・レコードやオルガンから流れてくる曲があれば、どの子も生き生きと楽しそうな表情になる。そして、それぞれの子どもに合ったやり方で楽しい気持ちを表現しようとする。音楽はそれ自体、行動を通して、リズムを通して、言葉を通して学習できる総合的な要素を持っている。そこで主体的に意欲をもって取り組める活動として音楽を取り上げた。ここではB子の場合を通して述べてみたい。

#### ① B子の音楽への興味

B子は集団生活が初めてで、家庭や家族から離れた不安から入学後2か月以上も毎日泣き続けていた。そんなB子も音楽への興味・関心は強く、泣くのをやめて反応することがよく見られた。下に、4月頃に見られたB子の反応をあげてみる。

月 日	行 動 の 観 察
4・18	・「大きな栗の木の下で」のレコードをかけると笑顔が出る。歌を口ずさみながら少しだけ手を動かそうとする。
4・19	・教師がオルガンに向かうと「大きなくりの…」の部分だけ口ずさみながら、そばにやってくる。
4・21	・テレビやオルガンから曲が流れてくると少しだけ体を動かそうとする。
4・23	・「アメリカうまれの…」と知っている歌の一部分だけ歌っている。
4・28	・友だちや教師が歌っている様子をじっと見ている。

床にねころがったり椅子に座りこんだりして泣いている状態がほとんどだったB子は、家族の過保護のために基本的な生活習慣は身につけておらず、何でもひとの手を借りるのが当然の生活をしてきた。自分でやろうとする意欲にまったく欠けていた。そこで、B子の気持ちを安定させ少しでも行動しようとする意欲を起こさせる為に音楽指導が効果的と考えたのである。

#### ② 指導の方針

- ・身体表現を多くとり入れる。
- ・テレビ、レコード等視聴覚機器の活用
- ・リズム楽器（カスタネット、すずなど）の導入
- ・歌あそび、手あそびの組み入れ — 遊びの中に音楽を使う —

以上の点を学級での扱いの際に考慮していくこととした。また、全体を相手にする場面と子どもたち一人一人に働きかけていく場面とのある指導ということに留意した。

### ③ 指導の経過

毎日音楽指導ができるように、朝の扱いの中に音楽指導の過程をパターン化して設定した。

1. オルガンの前にすわり子どもの好きな歌を何曲か一緒に歌う。
2. 季節の歌や新しい歌を歌ってきかせる。
3. 歌詞に合ったふりをつけ、動作をしながら歌う。動作はまねさせる。
4. 「むすんでひらいて」「手をたたきましょう」（歌詞の内容が直接身体表現につながっている曲）を応用しながら繰り返す。

繰り返しこのパターンで指導した結果、B子は2・3か月たつとこのパターンを覚えてしまった。4の活動はB子が一番気に入っているもので音楽が始まるとじっと聞いており待っている様子を見せるようになった。B子なりの参加のようすをつぎに示す。

学習内容	B子の反応および手立て	変化のようす
・レコードを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている曲がかかると喜び、歌を口ずさむ。</li> <li>・「大きなくりの……」は少し手を動かす。</li> <li>◎しばらくの間レコードをかけてやる。</li> <li>◎教師が向かい合い、踊ってみせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲がかかっている間は泣かないで聞くようになる。</li> <li>・自分も曲に合わせて少しずつ動作しようとする。</li> </ul>
・歌を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている歌が聞こえると泣きやんでじっと聞いている。</li> <li>◎いろいろな場面で1対1で知っている歌、口ずさむ歌を歌って聞かせてやる。</li> <li>◎新しい曲は全体の場で何度も歌ってやる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい曲の一節を口ずさむ。</li> <li>・歌ってくれる教師に笑顔を見せる。</li> <li>△人の髪をひっぱり相手の表情を見る。</li> <li>△「ズボン上げて」の指示に反応し上げる動作をする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・手遊び</li> <li>・歌遊びをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友だちの動作をじっと見つめている。</li> <li>・両手をにぎりしめて喜ぶ。</li> <li>◎B子と向かい合って遊びをしてやる。</li> <li>◎B子の両手をとって一緒に動作をしてやる。 (げんこつ山のたぬきさん)</li> </ul> <p>※ △は音楽活動以外の場面での行動の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑い声を立ててされるままになっている。</li> <li>・何度も繰り返してやるように要求する。</li> <li>△「ねんね」といって教師の手をひっぱり敷物の上に寝ようとする。</li> <li>△「こちょこちょ」とくすぐることを要求する。</li> </ul>

#### ○音楽指導の試みにおける考察

最初、興味を持つのは知っている歌に対してだけだったが、やがて新しい曲にも関心を持つようになり、それを歌ったり踊ったりしている教師に目を向けるようになった。そして自分の知っている歌を歌うことや歌に合わせて踊ることを要求し始めた。それにつれて他の生活面でも自分の望むことを教師に対して要求することができるようになった。音楽指導は、自分でやろうとする意欲に欠けていたB子に行動しようとする意欲を起こさせた。それはただB子の音楽的興味を満足させるための行動にとどまらず、次には音楽活動をしている教師に対する働きかけとなって表われたのである。このことから音楽指導は子どもが主体的に意欲をもって取り組む態度を培うものであると考えられる。今後も低学年の指導において欠くことのできないものであるといえよう。

#### 4 まとめと考察

- (1) ただ単に「着替えができない」といっても、着替えの中のどの動作ができないのか、どの段階でつまづいているかを発見し手立てを講じていくことが大切である。
- (2) 運動感覚訓練については、身辺処理のステップとの関連を考えながら内容を検討し実践を続けていかなければならない。
- (3) 誰もが自由に楽しむことのできる音楽は表現活動の要素を多く含んでおり、リズム感・音感等の音楽的感覚を養うだけでなく、ことばや身体動作の発達も促されていく。
- (4) 自分ひとりで楽しんでいたものが、教師などのかかわり方によって、一緒に動作したりいっしょに歌ったりするなど、教師や友だちを意識するようになる。
- (5) 子どもたちは生活の大部分を家庭で過ごすので、家庭と学校とがうまく連携をとって指導にあたることにより学習の効果があがる。

以上、意欲をもって生活できる子どもを育てるための指導をまとめてみたが、今後の課題として、次のようなことがあげられる。

1. 学習のステップをさらに細かく分けて学習過程を組む必要がある。それによって子どもの実態の把握や評価をし手だてを講じていく。
2. 生活ノートなど家庭との連絡の方法や内容を再検討し工夫することにより、さらに教育効果をあげていく。
3. 子どもの意欲的な活動を育てるために、ひとりひとりの子どもに対する教師のかかわり方を常に考えていく。